**（８億人の選択　インド総選挙：６）自殺止まらぬ貧困農民**

2014年4月19日05時00分

[](http://digital.asahi.com/articles/photo/AS20140419000239.html)

[自殺したアショクさんの遺影を前に「４人の娘をどうやって育てればいいのか」と話すニルマラさん（右端）＝インド中部ジャルカ、貫洞欣寛撮影](http://digital.asahi.com/articles/photo/AS20140419000239.html)

　「テレビの修理に行ってくる」。インド中部マハラシュトラ州ジャルカの農家アショク・コチャデさん（当時３６）は３月２日朝、そう言って家を出たまま戻らなかった。借金を苦にため池に飛び込み、自殺したのだ。

　綿花農家のアショクさんは３年前、種子などを買うため銀行から３万５千ルピー（約６万円）を借りた。だが３年間、天候に恵まれず収穫はゼロ。近所 や親族にもお金を借り、最終的に総額は１０万ルピーに膨らんだ。「食べ物もお金もなくなった」と妻ニルマラさん（３２）はうつむく。

　■低所得層８割

　一時は[経済成長率](http://www.asahi.com/topics/word/%E7%B5%8C%E6%B8%88%E6%88%90%E9%95%B7%E7%8E%87.html)が９％を超え、ＢＲＩＣＳの一角として注目を集めるインド。しかし、年間の所得が５千ドル（約５０万円）を下回る低所得層は約１０億人と、全人口の８割を占める。

　こんな状況で続くのが貧しい農民の自殺だ。この１０年、年１万人を超え、最も多いマハラシュトラ州では一昨年、綿花農家を中心に３７８６人が自ら 命を絶った。農村の支援活動を行うＮＧＯヘルプエージ・インディアのマシュー・チェリアン最高経営責任者は「経済成長は、人口の７割が暮らす農村部に行き 届いていない」と語る。

　灌漑（かんがい）が整備されておらず、収穫は天候頼みが続く。さらにここ１０年、害虫に強いという米国製の[遺伝子組み換え](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%81%BA%E4%BC%9D%E5%AD%90%E7%B5%84%E3%81%BF%E6%8F%9B%E3%81%88.html)（ＧＭ）された種子が主流になった。種子の値段は従来種の１０倍。多くの農家が借金を増やし、リスクが高まった。

　■薄い政策効果

　農村の窮地を救うためとして、現政権を率いる国民会議派は２００５年、農村雇用保障法を成立させた。希望する農民は１年間で少なくとも１００日、土木工事などに従事することができ、そのぶん所得が保障されるというものだ。

　ただ、実際に雇用が確保されたのは、マハラシュトラ州では１人平均２３日（１２年）、最貧州のビハールではわずか５日だった。[国連開発計画](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%9B%BD%E9%80%A3%E9%96%8B%E7%99%BA%E8%A8%88%E7%94%BB.html)のアドバイザー、ナレシュチャンドラ・サクセナさんは「貧しい地域では行政能力も低く、必要なところに届かない。政策は絵に描いた餅だ」と話す。

　アショクさんの村の隣村では４年前、ガジェンドラ・アシュトラルさん（３０）の父親が綿花の栽培に失敗し、自殺した。「貧しい人々を重視するという国民会議派の公約は口だけだった」というガジェンドラさんは今回、野党の[インド人民党](http://www.asahi.com/topics/word/%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%89%E4%BA%BA%E6%B0%91%E5%85%9A.html)（ＢＪＰ）に投票した。

　０４年の[総選挙](http://www.asahi.com/senkyo/sousenkyo46/)では事前の[世論調査](http://www.asahi.com/topics/word/%E4%B8%96%E8%AB%96%E8%AA%BF%E6%9F%BB.html)でＢＪＰの有利が伝えられたが、ふたを開けてみると、国民会議派が勝った。都市の中間層の支持を受けるＢＪＰに対し、圧倒的多数を占める地方の農民が会議派に投票したとされる。

　今回の結果はどう出るか。（ジャルカ＝貫洞欣寛）＝おわり

digital.asahi.com/articles/DA3S11092401.html?\_requesturl=articles%2FDA3S11092401.htmlamp;iref=comkiji\_txt\_end\_s\_kjid\_DA3S11092401